



Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS 仮想マシン トラッカー構成 ガイド、リリース 10.3(x)

初版：2022 年 8 月 19 日

最終更新：2023 年 1 月 10 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（ www.cisco.com/jp/go/safety_warning/ ）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS REFERENCED IN THIS DOCUMENTATION ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. EXCEPT AS MAY OTHERWISE BE AGREED BY CISCO IN WRITING, ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS DOCUMENTATION ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED.

The Cisco End User License Agreement and any supplemental license terms govern your use of any Cisco software, including this product documentation, and are located at: <http://www.cisco.com/go/softwareterms>. Cisco product warranty information is available at <http://www.cisco.com/go/warranty>. US Federal Communications Commission Notices are found here <http://www.cisco.com/c/en/us/products/us-fcc-notice.html>.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any products and features described herein as in development or available at a future date remain in varying stages of development and will be offered on a when-and-if-available basis. Any such product or feature roadmaps are subject to change at the sole discretion of Cisco and Cisco will have no liability for delay in the delivery or failure to deliver any products or feature roadmap items that may be set forth in this document.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For the purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on RFP documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: [www.cisco.com go trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2022 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

はじめに :

はじめに	v
対象読者	v
表記法	v
Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチの関連資料	vi
マニュアルに関するフィードバック	vi
通信、サービス、およびその他の情報	vii

第 1 章

新規および変更情報	1
新規および変更情報	1

第 2 章

概要	3
仮想マシン トラッカーに関する情報	3
仮想マシン トラッカーおよび VMware vCenter	3

第 3 章

仮想マシン トラッカーの構成	5
仮想マシン トラッカーに関する情報	5
VM トラッカーの注意事項と制限事項	5
花王マシン トラッカーの有効化	6
vCenter への新規接続の作成	7
VMware vCenter との情報の同期	7
VPC トポロジで互換性チェック	8
仮想マシン トラッカー構成の確認	9
特定のインターフェイスで仮想マシン トラッカーを有効にする	10
ダイナミック VLAN 作成の構成	11

ダイナミック VLAN 作成の有効化 11

許可されている VLAN リストの構成 12

仮想マシン トラッカーの構成例 12



はじめに

この前書きは、次の項で構成されています。

- [対象読者](#) (v ページ)
- [表記法](#) (v ページ)
- [Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチの関連資料](#) (vi ページ)
- [マニュアルに関するフィードバック](#) (vi ページ)
- [通信、サービス、およびその他の情報](#) (vii ページ)

対象読者

このマニュアルは、Cisco Nexus スイッチの設置、設定、および維持に携わるネットワーク管理者を対象としています。

表記法

コマンドの説明には、次のような表記法が使用されます。

表記法	説明
bold	太字の文字は、表示どおりにユーザが入力するコマンドおよびキーワードです。
<i>italic</i>	イタリック体の文字は、ユーザが値を指定する引数です。
[x]	省略可能な要素（キーワードまたは引数）は、角かっこで囲んで示しています。
[x y]	いずれか1つを選択できる省略可能なキーワードや引数は、角かっこで囲み、縦棒で区切って示しています。
{x y}	必ずいずれか1つを選択しなければならない必須キーワードや引数は、波かっこで囲み、縦棒で区切って示しています。

表記法	説明
[x {y z}]	角かっこまたは波かっこが入れ子になっている箇所は、任意または必須の要素内の任意または必須の選択肢であることを表します。角かっこ内の波かっこと縦棒は、省略可能な要素内で選択すべき必須の要素を示しています。
variable	ユーザが値を入力する変数であることを表します。イタリック体が使用できない場合に使用されます。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しないでください。引用符を使用すると、その引用符も含めて string と見なされます。

例では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
screen フォント	スイッチが表示する端末セッションおよび情報は、スクリーンフォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチの関連資料

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチ全体のマニュアルセットは、次の URL にあります。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps13386/tsd_products_support_series_home.html

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

通信、サービス、およびその他の情報

- シスコからタイムリーな関連情報を受け取るには、[Cisco Profile Manager](#) でサインアップしてください。
- 重要な技術によりビジネスに必要な影響を与えるには、[Cisco Services](#) にアクセスしてください。
- サービス リクエストを送信するには、[Cisco Support](#) にアクセスしてください。
- 安全で検証済みのエンタープライズクラスのアプリケーション、製品、ソリューション、およびサービスを探して参照するには、[Cisco Marketplace](#) にアクセスしてください。
- 一般的なネットワーキング、トレーニング、認定関連の出版物を入手するには、[Cisco Press](#) にアクセスしてください。
- 特定の製品または製品ファミリの保証情報を探すには、[Cisco Warranty Finder](#) にアクセスしてください。

Cisco バグ検索ツール

[Cisco Bug Search Tool](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理する Cisco バグ追跡システムへのゲートウェイとして機能する、Web ベースのツールです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。



第 1 章

新規および変更情報

この章では、『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS 仮想マシン トラッカー構成ガイド』の新機能または変更機能それぞれについて、リリース固有の情報を提供します。

- [新規および変更情報 \(1 ページ\)](#)

新規および変更情報

表 1: NX-OS リリース 10.3(x) の新機能および変更された機能

特長	説明	変更が行われたリリース	参照先
該当なし	このリリースの機能更新はありません。	10.3(1)F	該当なし



第 2 章

概要

この章は、次の項で構成されています。

- [仮想マシン トラッカーに関する情報 \(3 ページ\)](#)
- [仮想マシン トラッカーおよび VMware vCenter \(3 ページ\)](#)

仮想マシン トラッカーに関する情報

仮想マシン トラッカー (VM トラッカー) は、VMware vCenter と連携して、次のことを行うことができます。

- 各 VM に使用される Cisco Nexus 9000 シリーズ ポートを識別する
- 各 VM の VLAN 要件を識別する
- あるホスト (ESXi) から別のホストへの VM の移動を追跡する
- VLAN の追加、削除、変更などの VM の設定変更を追跡し、Cisco Nexus 9000 シリーズ ポートで VLAN を適切に構成する
- VM およびホストの追加または削除を追跡し、Cisco Nexus 9000 シリーズ ポートで VLAN を適切に構成する
- 物理ポート側の Cisco Nexus 9000 サーバで VM の状態を追跡し、VLAN をダイナミックにプロビジョニングする

仮想マシン トラッカーおよび VMware vCenter

VM トラッカーは、VMware vCenter と同期して次の情報を取得します。

- VM が存在するホスト。
- VM トラフィック フローが存在する Cisco Nexus 9000 シリーズのポート。
- VM が仮想スイッチに接続する仮想ネットワーク インターフェイス カード (vNIC) 。

- VM の電源状態。
- ポート グループまたは分散仮想スイッチ (DVS) ポート グループの VLAN 情報。
- VM に必要なポート グループまたは DVS ポート グループ。



第 3 章

仮想マシン トラッカーの構成

この章は、次の項で構成されています。

- [仮想マシン トラッカーに関する情報 \(5 ページ\)](#)
- [花王マシン トラッカーの有効化 \(6 ページ\)](#)
- [vCenter への新規接続の作成 \(7 ページ\)](#)
- [VMware vCenter との情報の同期 \(7 ページ\)](#)
- [VPC トポロジで互換性チェック \(8 ページ\)](#)
- [仮想マシン トラッカー構成の確認 \(9 ページ\)](#)
- [特定のインターフェイスで仮想マシン トラッカーを有効にする \(10 ページ\)](#)
- [ダイナミック VLAN 作成の構成 \(11 ページ\)](#)
- [仮想マシン トラッカーの構成例 \(12 ページ\)](#)

仮想マシン トラッカーに関する情報

VM トラッカーの注意事項と制限事項

VM トラッカーに関する注意事項および制限事項は次のとおりです。

- キーワードが付いている **show** コマンドはサポートされていません。 **internal**
- すべてのポートで VM トラッカーが有効になっている場合、スイッチポートおよび VLAN に関連するレイヤ 2 またはレイヤ 3 の構成を行うことはできません。
- VM トラッカーは、最大 4 つの vCenter 接続をサポートします。
- VM トラッカーは、vCenter の高可用性およびフォルト トレランスの機能をサポートしません。
- ホストを Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチのポートに直接接続する必要があります。ファブリックインターコネクタ、別のスイッチ、またはシャーシを介したホスト接続はサポートされていません。



(注) ファブリック エクステンダ (FEX) を介したホストの接続は、Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチでサポートされています。

- VMware Distributed Resource Scheduler (DRS) が有効になっている場合、VM トラッカーはVMの電源がオンになったことをすぐに検出できません。ただし、後でVMトラッカーがVMware VCenter との完全同期を実行すると、VMはVMトラッカーによって認識されるようになります。VMware DRS を無効にすると、この問題を回避できます。

花王マシントラッカーの有効化

デフォルトでは、VM トラッカー機能はすべてのインターフェイスで有効です。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **[no] feature vmtracker**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# [no] feature vmtracker	すべてのインターフェイスでVMトラッカー機能を有効にします。 コマンドの no 形式では、すべてのインターフェイスでVMトラッカーを無効にします。

例

この例では、VM トラッカーを有効にする方法を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature vmtracker
switch(config)#
```

vCenter への新規接続の作成

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **[no] vmtracker connection connection-name**
3. switch(config-vmt-conn)# **[no] remote {ip address ip_address | port port_number | vrf}**
4. switch(config-vmt-conn)# **username username password password**
5. switch(config-vmt-conn)# **[no] connect**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# [no] vmtracker connection connection-name	指定された接続名の VM トラッカー接続構成モードを開始します。 コマンドの no 形式は接続を無効にします。
ステップ 3	switch(config-vmt-conn)# [no] remote {ip address ip_address port port_number vrf}	リモート IP パラメータを構成します。
ステップ 4	switch(config-vmt-conn)# username username password password	vCenter に接続するためのユーザー名とパスワードを確認します。
ステップ 5	switch(config-vmt-conn)# [no] connect	vCenter に接続します。 コマンドの no 形式では、vCenter から VM トラッカーを切断します。

例

次に、VMware vCenter との新しい接続を作成する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vmtracker connection conn1
switch(config-vmt-conn)# remote ip address 20.1.1.1 port 80 vrf management
switch(config-vmt-conn)# username user1 password abc1234
switch(config-vmt-conn)# connect
```

VMware vCenter との情報の同期

デフォルトでは、VM トラッカーが VMware vCenter からすべての非同期イベントを追跡し、スイッチポート構成をすぐに更新します。同期メカニズムを任意に構成することで、VMware

vCenter とすべてのホスト、VM、ポートグループの情報を指定した間隔で自動的に同期することもできます。

コマンド	目的
<code>[no] set interval find-new-host val</code>	vCenter に新たに接続されたホストを検索する間隔を秒単位で設定します。コマンドの no 形式は、以前構成された間隔を無効にします。 デフォルトの間隔は 3600 秒です。
<code>[no] set interval sync-full-info val</code>	すべてのホスト、VM、ポートグループの関連情報を vCenter と同期する間隔を秒単位で設定します。コマンドの no 形式は、以前構成された間隔を無効にします。 デフォルトの間隔は 3600 秒です。
<code>vmtracker connection connection-name refresh</code>	指定した接続に対して、すべてのホスト、VM、ポートグループの関連情報を vCenter とただちに同期します。

例

次に、vCenter に新たに接続されたホストを検索する間隔を設定する例を示します。

```
switch(config-vmt-conn) # set interval find-new-host 300
```

次に、すべてのホスト、VM、ポートグループの情報を vCenter と同期する間隔を設定する例を示します。

```
switch(config-vmt-conn) # set interval sync-full-info 120
```

次に、すべてのホスト、VM、ポートグループの情報を vCenter とただちに同期する例を示します。

```
switch# vmtracker connection conn1 refresh
```

VPC トポロジで互換性チェック

VPC トポロジでは、VM トラッカーはタイプ 2 の互換性チェックを実行します。このチェックにより、特定の接続名について、次のフィールドが VPC ピア間で照合します。

- VM トラッカーが接続する必要がある vCenter IP アドレス。
- VM トラッカーが接続する必要がある vCenter ポート番号。
- 特定の接続で許可される VLAN 範囲。
- VM トラッカーが vCenter Server への接続に使用するユーザー名とパスワードの組み合わせ。

VPC チェックが成功したかどうかを判断するには、**show vpc consistency-parameters global** を使用します。コマンドを使用して、ACI イメージがスタンドアロン スイッチに正常に転送されたことを確認します。

VPC チェックの例を次に示します。

```
switch# show vpc consistency-parameters global

Legend:
  Type 1 : vPC will be suspended in case of mismatch

Name                               Type  Local Value                               Peer Value
-----
Vlan to Vn-segment Map             1     No Relevant Maps                           No Relevant Maps
STP Mode                            1     Rapid-PVST                                Rapid-PVST
STP Disabled                        1     None                                       None
STP MST Region Name                 1     ""                                         ""
STP MST Region Revision             1     0                                          0
STP MST Region Instance to VLAN Mapping
STP Loopguard                      1     Disabled                                  Disabled
STP Bridge Assurance                1     Enabled                                   Enabled
STP Port Type, Edge                 1     Normal, Disabled,                         Normal, Disabled,
BPDUFilter, Edge BPDUGuard         Disabled                                  Disabled
STP MST Simulate PVST               1     Enabled                                   Enabled
Interface-vlan admin up             2     1-8                                       1-8
Interface-vlan routing capability   2     1-8                                       1-8
vmtracker connection params        2     conn1, 10.193.174.215, conn1, 10.193.174.215,
80, 1-4094                          80, 1-4094
Allowed VLANs                       -     1-100                                    1-100
Local suspended VLANs               -     -                                          -
switch#
```

仮想マシントラッカー構成の確認

VM トラッカーの構成を表示し、検証するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
show running-config vmtracker [all]	VM トラッカー構成を表示します。
show vmtracker [connection <i>conn_name</i>] {{info [interface <i>intf_id</i>]} {summary detail host vm port-group}} event-history}	次に基づいて VM トラッカーの構成を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 接続 (Connection) • インターフェイス • イベント履歴

コマンド	目的
<code>show vmtracker [connection conn_name] status</code>	指定した vCenter 接続の IP アドレスおよび接続ステータスを表示します。
<code>show logging level vmtracker</code>	VM トラッカーの syslog メッセージのログレベルを表示します。

特定のインターフェイスで仮想マシントラッカーを有効にする

`[no] feature vmtracker` コマンドを使用して VM トラッカーを有効にするとき、すべてのインターフェイスでデフォルトで有効になります。 `[no] vmtracker enable` コマンドを使用して、特定のインターフェイスでオプションで無効および有効にできます。

手順の概要

1. `switch# configure terminal`
2. `switch(config)# interface type slot/port`
3. `switch(config-if)# [no] vmtracker enable`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# interface type slot/port</code>	指定したインターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>switch(config-if)# [no] vmtracker enable</code>	指定したインターフェイスで、VM トラッカー機能を有効にします。 コマンドの <code>no</code> 形式では、指定したインターフェイスで VM トラッカー機能を無効にします。

例

次に、指定したインターフェイスで VM トラッカー機能を有効にする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/3/1
switch(config-if)# vmtracker enable
```

ダイナミック VLAN 作成の構成

ダイナミック VLAN 作成の有効化

グローバルな VLAN のダイナミック作成および削除は、デフォルトでは有効になっています。ダイナミック VLAN 作成が有効になっているときに、VM があるホストから別のホストに移動し、この VM に必要な VLAN がスイッチに存在しない場合、必要な VLAN がスイッチ上に自動的に作成されます。この機能も無効にできます。ただし、ダイナミック VLAN 作成を無効にする場合、必要な VLAN すべてを手動で作成する必要があります。

始める前に

VM トラッカー機能が有効になっていることを確認します。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **vmtracker connection connection-name**
3. switch(config-vmt-conn)# **[no] autovlan enable**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# vmtracker connection connection-name	指定された接続名の VM トラッカー接続構成モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-vmt-conn)# [no] autovlan enable	ダイナミック VLAN 作成および削除を有効にします。 コマンドの no 形式は、ダイナミック VLAN 作成および削除を無効にします。

例

この例では、ダイナミック VLAN 作成を有効にする方法を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vmtracker connection conn1
switch(config-vmt-conn)# autovlan enable
```

許可されている VLAN リストの構成

デフォルトでは、すべての VLAN はインターフェイスでダイナミックに設定できます。このような VLAN の制限リストを定義することもできます。

始める前に

VM トラッカー機能が有効になっていることを確認します。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **vmtracker connection connection-name**
3. switch(config-vmt-conn)# **allowed-vlans {allow-vlans | add add-vlans | except except-vlans | remove remove-vlans | all}**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# vmtracker connection connection-name	指定された接続名の VM トラッカー接続構成モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-vmt-conn)# allowed-vlans {allow-vlans add add-vlans except except-vlans remove remove-vlans all}	インターフェイスでダイナミックに構成できる VLAN のリストを構成します。

例

次に、許可 VLAN のリストを構成する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vmtracker connection test
switch(config-vmt-conn)# allowed-vlans 100-101
```

仮想マシントラッカーの構成例

この例では、vCenter との接続を作成する方法を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature vmtracker
switch(config)# vmtracker connection test
switch(config-vmt-conn)# remote ip address 20.1.1.1 port 80 vrf management
switch(config-vmt-conn)# username user1 password abc@123
switch(config-vmt-conn)# connect
switch(config-vmt-conn)# show vmtracker status
```

```

Connection          Host/IP              status
-----
test                20.1.1.1            Connected

switch(config-vmt-conn)# show vmtracker info detail
-----
Interface          Host                VMNIC   VM          State PortGroup  VLAN-Range
-----
Ethernet1/3/1     20.2.2.2           vmnic4  No-OS1     on   PGroup100  100
-----

switch(config-vmt-conn)# show running-config vmtracker
!Command: show running-config vmtracker
!Time: Mon Mar 10 09:07:47 2014
version 6.0(2)U3(1)
feature vmtracker
vmtracker connection test
remote ip address 20.1.1.1 port 80
username user1 password abc@123
connect

switch(config-vmt-conn)# show running-config interface ethernet 1/3/1
!Command: show running-config interface Ethernet1/3/1
!Time: Mon Mar 10 09:09:13 2014
version 6.0(2)U3(1)
interface Ethernet1/3/1
switchport mode trunk
switchport trunk allowed vlan 1,100

```



(注) VLAN 1 は、インターフェイス Ethernet1/3/1 でのネイティブ VLAN です。

次に、vCenter で VM の電源をオフにした後に VM トラッカー情報を確認する例を示します。

```

switch(config-vmt-conn)# show vmtracker info detail
-----
Interface          Host                VMNIC   VM          State PortGroup  VLAN-Range
-----
Ethernet1/3/1     20.2.2.2           vmnic4  No-OS1     off  PGroup100  100
-----

switch(config-vmt-conn)# show running-config interface ethernet 1/3/1
!Command: show running-config interface Ethernet1/3/1
!Time: Mon Mar 10 09:09:13 2014
version 6.0(2)U3(1)
interface Ethernet1/3/1
switchport mode trunk
switchport trunk allowed vlan 1, 100

```

次に、vCenter を介して新しい VLAN を追加した後に VM トラッカー情報を確認する例を示します。

```
switch(config-vmt-conn)# show vmtracker info detail
-----
Interface      Host          VMNIC  VM          State PortGroup  VLAN-Range
-----
Ethernet1/3/1  20.2.2.2     vmnic4 No-OS1     on   PGroup100  100
Ethernet1/3/1  20.2.2.2     vmnic4 No-OS1     on   PGroup103  103
-----
```

```
switch(config-vmt-conn)# show running-config interface ethernet 1/3/1
!Command: show running-config interface Ethernet1/3/1
!Time: Mon Mar 10 09:11:06 2014
version 6.0(2)U3(1)
interface Ethernet1/3/1
switchport mode trunk
switchport trunk allowed vlan 1,100,103
```

次に、VM トラッカーのイベント履歴情報を確認する例を示します。

```
switch(config-vmt-conn)# show vmtracker event-history
-----
Event History (Connection:test NumEv:6 IP:20.1.1.1)
-----
EventId      Event Msg
-----
77870        Reconfigured No-OS1 on 20.2.2.2 in N3K-VM
77867        No-OS1 on 20.2.2.2 in N3K-VM is powered on
77863        Reconfigured No-OS1 on 20.2.2.2 in N3K-VM
77858        No-OS1 on 20.2.2.2 in N3K-VM is powered off
```

次に、vCenter との接続を切断する例を示します。

```
switch(config)# vmtracker connection test
switch(config-vmt-conn)# no connect
switch(config-vmt-conn)# show vmtracker status
Connection      Host/IP          status
-----
test            20.1.1.1        No Connect

switch(config-vmt-conn)# sh running-config interface ethernet 1/3/1
!Command: show running-config interface Ethernet1/3/1
!Time: Mon Mar 10 09:15:43 2014
version 6.0(2)U3(1)
interface Ethernet1/3/1
switchport mode trunk
switchport trunk allowed vlan 1

switch(config-vmt-conn)# show vmtracker info detail
-----
Interface      Host          VMNIC  VM          State PortGroup  VLAN-Range
-----
```




索引

A

allowed-vlans 12
allowed-vlans add 12
allowed-vlans all 12
allowed-vlans except 12
allowed-vlans remove 12

C

connect 7

R

remote ip address 7
remote port 7
remote vrf 7

S

set interval find-new-host 8
set interval sync-full-info 8
show logging level vmtracker 10
show running-config vmtracker 9
show running-config vmtracker all 9
show vmtracker connection 9-10
show vmtracker event-history 9
show vmtracker info 9
show vmtracker info detail 9
show vmtracker info host 9

show vmtracker info interface 9
show vmtracker info port-group 9
show vmtracker info summary 9
show vmtracker info vm 9
show vmtracker status 10
show vpc consistency-parameters global 9

V

vmtracker connection 7
vmtracker を有効にする 10
vmtracker 接続 8, 11-12

き

機能 vmtracker 6

し

自動 VLAN の有効化 11

は

パスワード 7

ゆ

username 7

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。